将来都市像

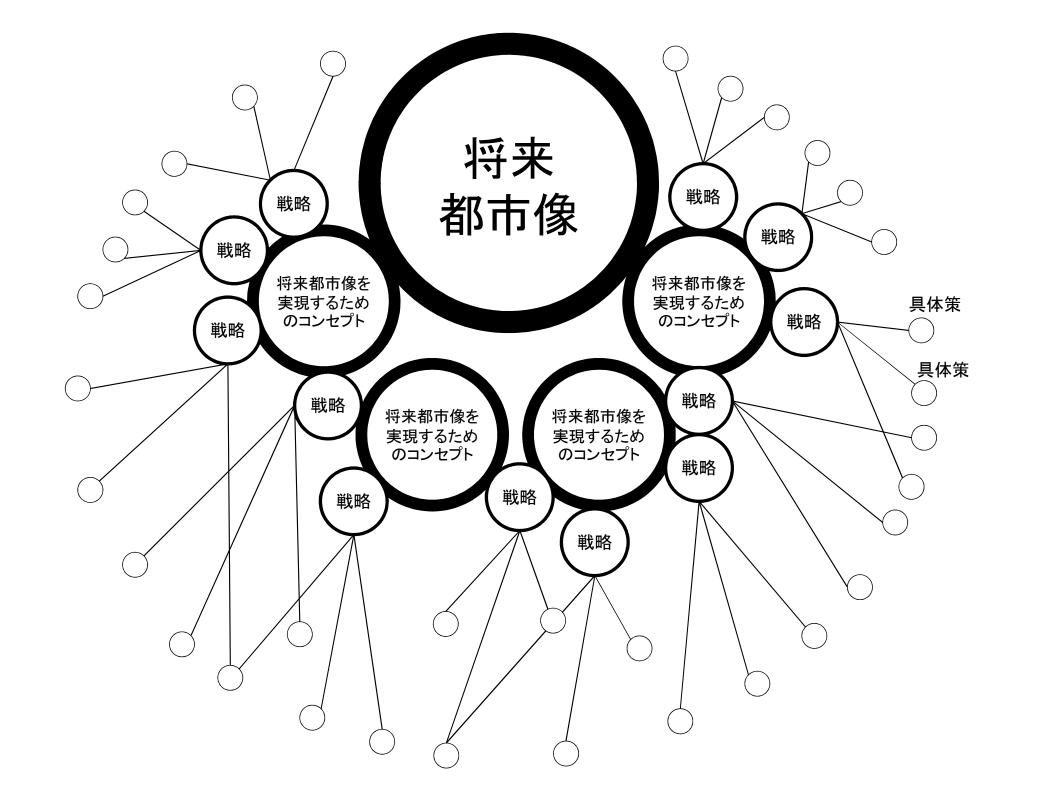
<u>000000000000(キャッチフレーズは今後決定)</u>

宮代町では都市的な要素と田園的な要素が混在している。 都市的な無機質感と田園的なムラ気質、は良くない側面だが、 都市的な洗練さ、と田園的な居心地の良さ、は宮代町の「売り」である。 この両方を兼ね備えている市町村は、そう多くはない 都市と田園の絶妙なバランスが「宮代らしさ」を作っている。

宮代町はかつてのように、都心に通勤する人たちのための町ではなく、 今では、宮代町に居住し、近隣で働く人たちの割合が高くなっている。 宮代町はすでに東京のベッドタウンではない。

コンパクトな町の中に都市の良さと田舎の良さを兼ね備えた宮代町 コミュニティに立脚した活動が盛んで、 活動自体やそれに取り組んでいる人々も、顔の見える距離にある ここをセールスポイントして力を入れて行こう

次の10年は、「宮代らしさ」を創出する機会の到来だと考えよう。 住みたい、住み続けたいと思える町を目指そう。



コンセプト1 宮代らしさを価値として高めていく

東武スカイツリーラインの終点である宮代町は、北関東の入り口であると同時に、東京への入り口でもある。わずか16平方キロの中に宮代町の魅力を高める要素がふんだんに詰め込まれている。日本工業大学、東武動物公園が立地し、進修館、山崎山、新しい村などの地域資源は人々を惹きつける魅力にあふれている。日常的に多くの人々が多様な人々が活動する中で交流が生まれ、新たな取り組みが生まれている。

宮代町では建物が低層に立ち並んでいる、 空が高い、駅を降りて視野の先に平地林が見 えるといった特性がある。宮代町では小生物、 鳥など、私たちの生活が自然とともにあるこ とを実感させてくれる。こうした宮代町の特 性は、都市においてはすでに失われ、望んで も手に入れられないものだ。 町に住む人も、外から訪れる人も、こうした宮代の良さをかけがえのないものとして共に認識し、未来に紡いでいくことで「宮代らしさ」を価値として高めていくことが大切だ。

そのためには、町民自身が町の良さを知り、外に伝えていく。また、ハード事業、ソフト事業を問わず、町の施策の一つ一つで、こうした宮代町の良さを意識しながら事業を進めて行く、そして外に向かって、繰り返し丁寧に「宮代らしさ」を伝えていく、「さすが宮代」「なるほど宮代」「やっぱり宮代」と思わせる取り組みを進める。

戦略A 新しい村や山崎山など、「農」の資源を活かしていく

田や畑、雑木林、河川など、町の原風景を形づくる「農」の資源は、人が自然に手をいれることによってつくられてきた。また、宮代町では、里山的な風景が農村集落を中心に形成されている。こうした地域資源を農業だけでなく、観光や教育、福祉など様々な分野で資源を活かすことで、町の取り組みの魅力や価値、独自性を高めていく。

事業化のアイデア ※「○」総合計画審議会、「●」市民×職員ワークショップ、「・」各課提案

- ○新しい村でキャンプとナイトZ00体験
- ○山崎山で森のようちえん活動
- ○田舎とおしゃれな町を融合
- ○収穫、宿泊体験にシェフ料理のおもてなし
- ○遊休農地と空き家をセットで週末農業
- ○新規就農者による観光農業
- ●One style Cafe in みやしろ
- ●足湯つくります
- ●巨峰タウンプロデュース大作戦
- ●農家レストラン
- ●ようこそ!みやしろファームへ

- 宮代をお酒から広めよう!
- ・宮代産巨峰リバイバルプラン
- ・宮代産おにぎりと惣菜カフェ
- ・新「市民農業大学」
- ・栄養バランス弁当を食べよう・学ぼう
- ・森の市場結のリニューアルと出張販売の実施
- ・給食レストラン
- ・ユニバーサル・アグリアプリ
- ・みやしろで田舎暮らし満喫
- ・みやしろの花による観光推進
- ・レッツ!トラストキャンプ〜新しい村で新しい発見を〜

戦略B東武動物公園駅西口ゾーンの魅力を高める

東武動物公園駅西口周辺には、進修館、笠原小学校、新しい村、東武動物公園などが狭い範囲の中に点在している。町の玄関口であるこのエリアには、町外から多くの皆さんが訪れる場所でもある。このエリアをトータルで考え、整備し、賑わいを演出することで、他地域とは違う「宮代らしさ」を展開していくことができる。

- ○動物公園との結びつきを強化
- ○進修館を際立たせるまちづくり
- ○田舎とおしゃれな町を融合
- ●駅を中心とした特色ある街づくり
- ●巨峰タウンプロデュース大作戦

- ・ワクワク楽しい道づくり
- ・宮代現代美術館~町全体がみんなのキャンパス
- ・まちじゅういたるところにベンチを!

戦略 C ″宮代″を発信していく

改めて町に目を向けてみよう。今まであたりまえだった景色や出来事、知らなかった地域の取り組み、町を深く知ると気が付かなかった町の魅力が見えてくる。同じ魅力に共感する仲間が必ずいる。町を知り、町を伝えよう、そして大いに町の魅力を自慢しよう。

- ○すでにあるものを再発見する
- ○豊かな自然、人のつながりをPR
- ○東京に一番近い田舎をPR
- ●One style Cafe in みやしろ
- ●出店希望者を集めた駅西口で開催する大規模イベント
- ●みやしろ国際芸術祭
- ●宮代町アプリ
- ●農家レストラン
- ・宮ィペディアの編纂(市民参加で宮代の辞典)

- ・われこそは○○で宮代一を33,000人
- ・みやしろで田園暮らし満喫
- ・宮代をお酒から広めよう!
- ・給食レストラン
- ・ペットタウン宮代
- ・ためしに、宮代町に住んでみた

コンセプト2 コンパクトな町の強みを活かす

町域が狭く、その中心を鉄道が縦断している、ということや、そもそも過去において、コンパクト化を指向してきたということもあり、すでに他の自治体が望んでいる姿が、宮代町には存在している。すでにコンパクト化している宮代町の特性が高齢化社会の中においてはプラスにはたらく。

また、コンパクトなまちは、比較的顔が見える関係を築きやすいことでもある。住民と住民、生産者と消費者、店舗と顧客など、顔が見える関係を広げ深めていくことは、安心や安全、ひいては地域経済においても好循環をもたらす。

しかし一方、これからの10年は、さらなる 高齢社会に突入する10年だ。「今まではそう だった」になっているのではないか。つまり、 高齢になると生活範囲が狭くなってくるので、 進修館に出てきて何かをする、というのがで きにくく、なる。それよりもむしろ、地域の 集会所や公民館で活動する機会が増えてくる。 住民の足は進修館や役場から遠のき、自分自身が生活する半径200メートル程度の世界に孤立してしまう。こうした皆さんは、行政には無関心だし、興味は持たない。行政に対して、あきらめに近い気持ちを持つようになってはいけないと思う。行政の目がとどかない人々が出現してはいけない。

そこをサポートするために、地域ごとの地域交流サロンなどを支援しているが、地域コミュニティの核となり、住民同士が交流できるというだけでなく、行政が役場という本丸を出て、地域コミュニティをサポートし、住民との共同作業ができる仕組みを作っていくことも必要になってくる。

戦略D 歩きたくなる「まちなか」をつくる

過去に整備した市街地にあっては、年齢やライフステージによって変化する生活圏を踏まえ、高齢化や少子化などの今日的な視点から、魅力を高めるためのハード、ソフト両面からのアクションが必要だ。

町の活性化には、多様な人々の出会いや交流が欠かせない。芝生やカフェ、椅子がある 歩道や公園、ガラス張りの店舗やオープンカフェ、多様な使い方でできる空間など、ゆる やかなつながりやコミュニティが生まれる居場所が必要だ。居心地が良いまちなか(市街 地)を創ろう。

事業化のアイデア ※「○」総合計画審議会、「●」市民×職員ワークショップ、「・」各課提案

- ○田舎とおしゃれな町を融合
- ○進修館を際立たせるまちづくり
- ○家作を改修してコミュニティカフェ
- ○空き家で体験居住
- ○空き店舗に行政の出張所
- ○こだわりの商店の集積
- ○昭和の街並みを活かしたエコミュージアム

○地域のニーズに合わせて活用できる公園

(ガーデニング、キャンプ、移動販売車乗入)

- ・市民でつくるプライベートパーク
- ・宮代現代美術館~町全体がみんなのキャンパス
- ・まちじゅういたるところにベンチを!
- ・空家、空き店舗のマッチング
- ・公園で屋台販売をしようプロジェクト

戦略E 日々の生活のアクセス性を高める

更なる高齢社会に突入し、高齢者の移動手段が自家用車から他の手段へと変化している。 この変化に取り残される人があってはならない。

- ○空き店舗に行政の出張所
- ○高齢者の外出支援で商業活性化
- ○空家を拠点とした有償ボランティアタクシー
- ○地域のニーズに合わせて活用できる公園

(移動販売車が乗り入れしやすい等)

- ●理想を現実へ~その悩み・我々が解決します~
- ・運転は地元有志、乗るのは地元民 低速電動バス

- ・小回りミニ循環バスの導入
- ・買い物難民を出さない ネット通販と地元の融合
- ・心のコンパクトシティ(電動アシスト自転車、自転車が走りや すい道路
- ・各駅周辺に役場(簡易)支所&フリースペースを設置し、地域 交流の活性化&空き家対策を推進

戦略F顔が見える地域経済をつくる

大量生産消費経済の「顔が見えない経済」から「顔が見える地域経済」へ移行し、お金も人もできるだけ、地域の中で循環させよう。人口減少時代を迎え、ローカル主体の経済を少しずつ創っていこう。

- ○元気なシニアによるコミュニティビジネス
- ○民間組織による若手起業家発掘イベント
- ○シニア起業と世代間交流を組み合わせた事業
- ○元気な高齢者による農業支援
- ○高齢者による子どもの有償の見守り、預かり
- ○自宅兼店舗の分離支援
- ○主婦が都合つくときだけ開店する店
- ○週替わりオーナーの店舗
- ○身内以外の事業承継(インターン受入れ)
- ○地域で求められる店舗を戦略的に誘致
- ○収穫、宿泊体験にシェフ料理のおもてなし
- ○子ども、お年寄り食堂
- ○学校、公園で見守り有償ボランティア
- ○大学と信用金庫、民間企業で起業支援
- ○高齢者の外出支援で商業活性化

- ○点在する魅力ある店舗のつながる場づくり
- ○地域のニーズに合わせて活用できる公園

(移動販売車の乗り入れ等)

- ・KING OF KOAKINAI (スモールビジネスコンテスト) ~小商いで地域の課題を解決!
- ・町民食堂「MINTOの樹」の町役場出店、駅でのお弁当販売
- ・貯めよう!みやしろポイント(みやしろ産を広めよう ~ Introduce Miyashiro town~)
- ・起業、創業、市民活動強化大作戦
- 健康パチンコでまちづくり
- ・自治会コンシェルジュ
- ・ちょっとした事手伝います 高齢者版ファミリーサポート
- ・ユニバーサル・アグリアプリ

コンセプト3 さまざまな活動や主体を生み出す

人口減少、高齢化に対応するためにはかつ て例のない(あるいは予測できないような社会 変化)にも対応しなければならない。行政が旗 ふりをして市民を組織するという時代ではな く市民自らが足元の課題に気づき意思をもっ て解決にあたることが重要だ。

町が行政課題を的確にとらえ足元の問題を解決していくのと同じぐらい、あるいはそれ以上に町民が自らの意思によって社会的な課題を解決することの意義は大きい。市民が主役になって行動を始めてこそ、町は大きく変わっていく。

市民活動や地域活動に取り組む団体はその分野における専門家集団でもある。市民がこうした地域の将来や課題に興味持ち、共に学び、実践することを繰り返す。こうしたことを生み出す機会やプラットフォームの設置を市民の自発性にゆだねるのではなく、町の10年後を見据えて、町として「活動を生み出し、結び、広げる」ためのオープンなプラットフォームを用意することも重要である。

一時のイベントで終えるのではなく、長期的な視点で取り組んで行くことで成果を生み出していく。ある一時に行政が目的をもって市民活動の発生を促すというよりも、その時々の社会情勢や地域課題に対応した市民による活動が自発的、自然発生的に生まれる町でありたい。

一方で、民間企業の本業を通じて地域貢献を行う考え方が定着しつつある。公共的課題を解決し、持続可能で良質な市民サービスを提供するには、従来の発想にとらわれず、あらゆる分野において官民連携を積極的に進めることが必要である。

様々な主体の活躍が求められる場は、公共スペースだけではない。空き家、空き店舗、街区公園など、民間、公共を問わずまちなかに点在する遊休化したスペースは、様々な活動の場に生まれ変わる可能性を秘めている。固定観念を捨てよう。

戦略G 活動を生み出す学びのプラットホームづくり

時代とともに様々な課題が生まれ、その都度、地域に新たな活動が生まれ克服してきた。 その時々の社会課題や時代的な要請に柔軟に応えるためには、市民の中からこれらの機運 や活動が生まれる必要がある。そのためのプラットホームをつくろう。

事業化のアイデア ※「○」総合計画審議会、「●」市民×職員ワークショップ、「・」各課提案

- ○町民が繋がるカルチャー教室
- ○町が関わらない市民や民間主導の活動支援
- ○民間組織による若手起業家発掘イベント
- ○元気な高齢者の発掘
- ○町以外の主体による人材バンクの運営
- ○市民団体でシニア向け「おかえりなさい」イベント
- ○大学と信用金庫、民間企業で起業支援

- ○民間組織による若手起業家発掘イベント
- ●シルバー人材の活用
- ●宮代町アプリ
- 宮代総合大学
- ・図書館でスター誕生!
- ・みやしろ全町民活躍アプリ

戦略 H 地域に人々の集まる"場"を生み出す

気軽に通える、誰かと会っておしゃべりできるなど、様々な人が集まる場は、安心や安全をもたらすだけでなく、新たなアイデアや活動が生まれるきっかけの場でもある。その活動内容、活動主体の規模の大小、あるいは世代にかかわらず、混ざりあい、交流する、触発し合うことで、多様性のある魅力ある地域をつくることができる。

- ○シルバー人材センターでの新たな事業展開
- ○市民団体でシニア向け「おかえりなさい」イベント
- Music Town Miyashiro
- ●おしゃべり広場・●アナログゲームで居場所づくり
- ●筋肉で町おこし ●町民みんな顔みしり
- ●空き店舗で仲間づくりのできる活動場所
- ●TSUTAYA風こども図書館

- ・空地、空家の有効利用を促し、安心して暮らせるまちを目指し て(「カシニワ」制度導入)
- ・市民でつくるプライベートパーク
- ・健康パチンコでまちづくり
- ・活動の輪を広げよう!まちかつ応援コンシェルジュ
- ・地域の力となる公民館の再編

戦略 I 産学官が連携できる町

産学官の連携は、企業による大学研究の事業化や波及する地域経済の活性化など「目的志向」の活動だ。利益追求の企業、研究志向の大学、地域全体を考える行政、関係者ごとに期待やゴールが異なることを踏まえ、立場を超えた効果的な連携を図ろう。

- ○アーバンデザインセンター(公民学連携組織)設立
- ○大学と信用金庫、民間企業で起業支援
- ○イベント、情報発信をバラバラにやらない連携
- ○新しい村でキャンプとナイトZ00体験
- ○動物公園との結びつきを強化
- ○大学、町、民間企業の連携の仕組み構築

- ●みやしろ国際芸術祭
- ●TSUTAYA風こども図書館
- ・日本工業大学、民間企業と連携した「子ども未来事業!2thステージ」
- ・地域みんなで子育てしよう~なやみZERO~事業

戦略 J 街中の遊休スペースを効果的に活用する

昔よく使われていた場所が今は使われていない。人口構造や社会環境が変化するなか、 求められていた役割が変化している。今、役割を変える時だ。一見使いようがないスペースも、使い方が固定されてしまったスペースも、使う人が変われば宝の山。地域に役立つ スペースに変えよう!

- ○家作を改修してカフェ
- ○遊休農地と空き家をセットで週末農業
- ○空き店舗に行政の出張所 ○空き家で体験居住
- ○自宅兼店舗の分離支援
- ○地域の二一ズに合わせて活用できる公園

(ガーデニング、キャンプ、移動販売車乗入)

- ・民と官で空きスペースを使い倒す!
- ・公園で屋台販売をしようプロジェクト
- ・町民食堂「MINTOの樹」の町役場出店、駅でのお弁当販売
- ・森の市場結のリニューアルと出張販売の実施

- ・起業、創業、市民活動強化大作戦
- ・ペットタウン宮代
- ・市民でつくるプライベートパーク
- ・宮代現代美術館~町全体がみんなのキャンパス
- ・今日は町内音楽デー♪
- ・各駅周辺に役場(簡易)支所&フリースペースを設置し、地域 交流の活性化&空き家対策を推進
- ・みやしろで田舎暮らし満喫
- 芸術のまちづくり(まちなかどこでもミュージアム)

構想を実現するために

コンセプト4 社会環境の変化に対応し、行政運営を変化させ続ける

戦略K 縦割りから横断的行政運営へ

地域の社会課題が複雑化するにつれて、その解決は行政の一部署だけでは、難しくなってきている。縦割りのままの行政組織では、時代の変化についていけない。"横串組織"、"即応できる機動部隊"が必要だ。

戦略 L 官主体から多様な主体による公共の運営

公共の運営には官民連携という視点を持つことも必要だ。官が公共の運営を独占するのではなく、市民や民間セクターなど、多様な主体が公共を運営することにより、より効果的で良質な運営ができるようになることができ、柔軟性や即応性を発揮することもできる。町民がわがこととして、様々な活動に取り組むためには、官か民かではなく、官も民も公共の運営の主役である、という視点を持つことが大切である。

戦略M 過去の目的に縛られず、今後求められる機能を核とした公共施設の再編

町内の公共施設は、建設当時と同じ発想で建て替えるのではなく、建物の機能が今後の宮代町に果たす役割を精査した上で公共施設のあり方を考えていく必要がある。どのような機能が必要なのか、複合化は可能か、既存施設を利用転換できないかなどを総合的に考えることが求められる。重要なのは建物そのものではなく、その建物の機能、その建物の中で行われる活動だ。

社会環境の変化、その先の未来を見据え、行政は変化し続けなければならない。